こぼれ話

結婚を申し込む＝プロポーズする時に昔は花を使った。いまはどうだろうか？よくは知らない。が、それでもプロポーズはその人の、その後の人生を大きく左右するものであることは疑いない。

ある男性は彼女と付き合ってもう4年にもなる。互いの親も「（どうなんだべ？）」と気を揉んでいた。それは彼女も同様であった。「（いいならいい、ダメならダメとはっきりして！）」と思うようになっていた。彼氏はプロポーズを決断した。

そして考えた末に、赤い花の咲くチューリップの球根を用意した。その年の4月、ある公園に彼女を呼び出した。そしてそれを渡し、プロポーズした。「これは赤い花の咲くチューリップです。これから二人で育てていきたいです！」と。彼女は心から喜び承諾した。

「なんで花でなく球根にしたの？」。彼氏「それは『求婚』だがら…」？

わが家の一品

【夏野菜の炒め物】

［材料］ナス、ニンジン、玉ねぎ、キュウリ、トマト、ベーコン、出汁の素、日本酒、みりん、砂糖、味噌、オイル。

［つくり方］いま夏野菜が旬を迎えていますね。どのように調理してもいいですがやっぱり味噌を入れた炒め物がいいですね。

夏バテ防止の上でも野菜炒めは最高です。

①野菜類は洗い適当に切っておきます。玉ねぎは大きく切ってバラしておきます。ベーコンは適当な長さに切っておきます。②大きめのフライパンにオイルを敷き火を入れ、野菜をすべて入れて炒めます。しんなりするまで炒めベーコンも入れます。③日本酒少々、出汁の素、みりんを加え、最後は味噌少々と砂糖を加え味を調えます。④味を確かめ足りないものを足して完成です。

（西町／K・S）

観光振興

観光振興の立案・推進部隊の形成と推進こそが大きな力に

市、なあど、観光協会等が一体で

佐藤産業振興公社社長の提起を含め議員との意見交換が行われました。湯ったり館では職員の

意識改革から始まった

藤原議員は新里地区の湯ったり館の例を紹介しながら、そこで働く職員の意識改革から始まり、やがて大きな効果が生まれた。「自分から動き出す」ことの重要性を強調しました。佐藤社長は、他の道の駅との連携（交流や物品の仕入れ等）の重要性を強調。

落合議員は、●職員の資質向上に関連し、公社職員は何人か。決算書では給料が3354万円だがどうか、と質問。関口専務から現在21人（正職員16人、アルバイト5人）体制で働いている。●また佐藤社長の熱い思い、改革私案をどう受け止めるか、と促しました。これに対し、やれるものはやっていく、反省点のある、同時にスタッフが少ない（レジ4人、窓口2人、2階9人）現状が話されました。

落合議員は以前、伊豆下田に視察に出かけた時、商店街の方々が市や観光協会等と連携しながらも、「当事者である商店主の自分ら自身が『企画立案も、関係団体との協議も、計画を推進する母体になってやっていることが重要」と取り組んでいたことを紹介しました。

伊藤産業振興部長は、『来年は遊覧船が就航する、出崎は重要な玄関口・核になる。「来たくなるような場所」にすることが重要。推進母体づくりを避けてきたきらいがある。役所まかせでなくみんなで取り組みたい』と。

安全な水供給を優先しながら水源変更（深井戸に）を検討する！

先週号で異臭問題の経過、発生原因と混入経路などについて紹介しました。今週は出光興産㈱のコメントと議会での質疑の内容を紹介します。

出光興産㈱のコメントは

●7月10日（土）に当社系列の給油所に置いてハイオクガソリンが漏洩している可能性が高いこと…津軽石地区の一部地域の地下水に漏洩している恐れがあります、と事実上漏洩を認めています。

●12日（月）、地下タンクと配管を関係機関立会いのもと検査し、ハイオクガソリンの配管にのみ圧力異常が確認されました、と発表しています。

利用住民に安全な水供給を基本に、同時に損害賠償責任を明確にすべき

質疑の中で議員からは損害賠償に関する意見が出されました。

落合議員は、◇住民に安全な水を供給することを前提に、◇二度に及ぶ異臭騒動からその原因も事実上特定されたと思う。水源変更と言ってもかなりの費用がかかる。それらを含め損害賠償責任を問うことも検討すべきだ。◇さらに消防署として、閉伊川沿、八木沢沿ＧＳへの法令点検をどう進めるか、も質しました。これに対しては消防署は、市内には26のＧＳがある。約70％が設置されてから19年～30年か経過している。在庫点検、法令点検を進める、と答弁がありました。（注／消防法上の危険物第４種にガソリン、灯油等。）

市は取水井戸周辺の水質監視を継続します。

読者の文芸欄

短歌　金沢邦臣（田鎖）

●人の居る家であるぞと唱えつつ玄関前の草取りをする

●夏日にも萎むことなく凛として白大輪の朝顔の花

自注／初めて気づいた事ですが、他の色づきの花が萎んでも、白い大輪の朝顔は夕方まで萎まず咲いています。少々不思議です。

つり

来月はお盆を迎える。コロナ感染拡大で先祖、親の墓参りもままならないが、それでも帰省する人も中にはいる。その中で釣りに行くことを夢見ている釣り吉がいる。

神奈川県から自分だけ帰省する宮古出身者がいるが「コロナは心配だが90歳になる母親に会っておがねぇどもう会えなぐなるんで行ぐでば。勿論ＰＣＲ検査を受げです」

本当にこのコロナの影響は大きい。「川さ釣りに行ぐのにマスクは必要ねぇのにおらほの母ちゃんは『マスクをつけで』っていうがえ」。その妻は「マスクつけるつけねぇでないの。普段の行動が問題なのす。いえば長ぐなるからやめっとも…」

ともあれコロナと妻には注意が必要なのだ。